

# 「地球」という 大きな部屋の インテリアデザイン

創刊号

本屋へ行くと住宅のデザインやインテリアデザインの雑誌が、たくさん並べてある。みんなが住宅の環境にこんなに気を使うのは、やはり気持ち良い生活を求めているからだ。

今年の夏、鈴鹿山系へキャンプに行った。ひんやりとした風と目にとびこんでくる山々の緑が心地よい。

しかし、自然景観のすばらしさを感じた時、なんとも無造作につくられてある道路横のコンクリート擁壁が目に入る。どうかして自然景観へ調和させる手だてはないのだろうか。(写真1)

キャンプの帰り下流にあるダムの下の村に行った。もちろんそこには、多くの民家があるのだけれど、上流を見あげるとコンクリートの固まりである巨大なダムがそびえ立っている。この圧迫感を何とか出来ないだろうか。(写真2)

人が生活するのは家の中だけじゃない。大袈裟かもしれないけれど、地球が僕らの生活するひとつの大きな部屋だと考えたい。そして、この部屋で気持ち良く過ごすために、その中の物のありようをいっぱい気を使って考えたい。

緑地デザイン科で学ぶ者として、永源寺ダムの景観について具体的な手だてを考えてみる事にする。

## 家づくり大特集



(写真1)



(写真2)



こんなに住宅には気を使うのに？



## ペイントによる方法

ダム周辺の自然景観の色相にあわせた色を使う



切り立った壁の圧迫感をなくするために空気遠近法を利用  
↓  
グラデーションの色使い





春夏



秋



冬

## 紅葉するつる植物による緑化法

つる植物の生育特性には（吸着してよじのぼる）（からまってよじのぼる）（垂れる）などがある。今回のような巨大なコンクリート壁の場合、その生育特性は吸着してよじのぼるものが適している。また、紅葉するという条件を合わせて考え、ナツツタを使用する。 つるの年間伸長量 250cm



紅葉および落葉することで四季に変化に応じた色面になる  
つたのもつイメージが建築物に趣を与える

緑化以外の効果として考えられるもの  
1、建築物表面のひび割れ防止保護  
2、壁面からの反射光の防止

